

研修生だより No.12 5 / 19 ~ 5 / 23

社会福祉法人建昌福祉会 帖佐すずらん保育園 福富

日付	時間	活動内容 & 場所
5月19日 (火)	11:30 19:30	カナダ バンクーバー出発 カナダ モントリオール到着
5月20日 (水)	9:00	家庭保育 (Milieu familial) Chez Natalie 見学・質疑応答
5月21日 (木)	9:00	Garderie (民間保育所) Le jardin urbain 見学・質疑応答
5月22日 (金)	9:00	École primaire Cardinal-Léger (Saint-Laurent) キンダーガーテン 見学・質疑応答
5月23日 (土)	20:40	カナダ モントリオール出発 フィンランドへ

モントリオールは、カナダが二言語国家となる歴史の中心に位置してきました。17世紀にフランス植民地として築かれたこの都市には、征服後も多くのフランス語話者が残り、北米最大のフランス語都市として独自の文化を守り続けたそうです。1867年の連邦成立時、モントリオールを抱えるケベック州の存在は非常に大きく、英語とフランス語を公的に保障する仕組みが採用されました。こうしてカナダは二言語国家として歩み始めたようです。カナダ全体の二言語体制の背景には、モントリオールという強固なフランス語社会の存在が大きく影響したと学びました。

そんなモントリオールでの研修は、家庭保育 (Milieu familial) ・ Garderie (民間保育所) ・ 就学前教育 (Éducation préscolaire) の 4 歳児 (Pre-K / Maternelle 4 ans) と 5 歳児 (Maternelle 5 ans) の見学や質疑応答を実施しました。

1つ目にモントリオールで見学したナタリー氏が運営している家庭保育 (Milieu familial) は、保育者の自宅で1~3歳頃の子どもを6名程度受け入れる少人数保育であり、家庭的な温かさと落ち着いた雰囲気が特徴的でした。視覚支援を用いたルールづくりや、基本的な生活習慣の獲得を重視した関わりが丁寧に行われ、子どもたちが安心して過ごせる環境が整えられていたと思います。保育者が一人で全ての子どもを見守りながらも、発達段階に応じた配慮がいくつも見られ、子どもの成長を大切にする姿勢が強く感じられました。



家庭の中を最大限に活かした保育環境

家庭保育はケベック州の保育制度の重要な柱であり、州の認可を受けた施設は監督機関による抜き打ちの査察を受けるようで、見学先でも監督者が突然訪れ書類を確認することがあると説明がありました。近年は制度変更により、子どもの発達記録や保育内容に関する書類作成が義務化され、家庭的な保育であっても高い専門性と事務作業が求められるようになったとのことで、運営者の負担増加を理由に運営を辞める家庭保育者も増えているという現実もあるようです。保育の質を上げていくためには必要なことではあると感じますが、地域に必要な施設がなくなっていくことについては、複雑な気持ちを感じる話ではありました。

それでも、20年以上継続して運営されている見学先の施設では、子どもと家庭のために保育を続ける強い思いが感じられ、家庭的な温かさをしっかり担保しながら、質も確保しており、地域にとって欠かせない存在であることがよく伝わってきました。

次に見学した2つ目の施設である「Le jardin urbain」は、非補助の Garderie として運営されている小規模保育施設であり、住宅の一角を保育スペースとして活用していました。室内環境は落ち着いた雰囲気で整えられ、子どもたちが安心して過ごせるよう、家具や教材の配置にも細やかな配慮が感じられました。1歳半から5歳頃までの子どもを約15名受け入れており、異年齢の子どもたちが自然に関わり合いながら生活している様子が印象的な施設です。

保育の理念としては、モンテッソーリをはじめとする複数の幼児教育法の良い部分を取り入れつつ、保育者・子ども・保護者が一体となって保育内容をつくり上げていく姿勢が強調して話を



Le jardinurbain の皆さんと一緒に

されていました。「大きな家族として共に育つ」という考え方が根底にあり、保育者が一方的に教育方針を押しつけるのではなく、家庭と協働しながら子どもの育ちを支える姿勢に深い共感を覚えました。視察期間中には「フルーツサラダ作り」プロジェクトが進行しており、子どもたちと一緒に近くの市場へ材料を買いに行くなど、生活と学びが自然に結びついた実践が行われていました。こうした体験型の活動は、子どもたちの主体性や社会性を育むうえで大きな意味を持ち、非常に参考になりました。

非補助の Garderie は、州の補助金を受けないため保育料は高めでしたが、その分、施設ごとに独自の教育方針や運営方法を柔軟に設定できる点が特徴であるようです。今回伺った Le jardinurbain では、給食については、全園児分を保護者が手作りして提供しており、ここにも「大きな家族」という理念が反映されていたように感じます。家庭の味を共有し合うことで、子ども同士・保護者同士のつながりも自然に深まっていくように考えます。

説明して下さったクララさんは日本人で、この5月からもう一人の共同経営者とともに前任のオーナーから施設を引き継いだとのことでした。モンリオールの地で、子どもたちのために情熱を持って保育に取り組む姿に、同じ日本人として大きな励ましと元気をいただきました。Le jardinurbain は、地域に根ざしながら独自の保育を実践する、魅力いっぱいの施設でした。

3日目には École primaire Cardinal-Léger (Saint-Laurent) の4歳児・5歳児クラスを見学し、ケベック州の幼児教育が「遊びを通じた学び」を中心にしながら、言語発達を非常に丁寧に支えていることを実感しました。教室には、ブロック、アート、絵本、感覚遊びなどのコーナーが明確に配置され、子どもが自ら活動を選び、主体的に学べる環境が整っていて、特に印象的だったのは、教師がジェスチャーや歌、リズムに合わせてわかりやすく指示を出す姿です。言語が十分でない子どもでも理解しやすく、安心して活動に参加できる工夫が随所に見られました。

また、毎日のルーティンを通して語彙が自然に定着する仕組みが整っており、天気や曜日、感情表現など、生活に密着した言葉が掲示されていました。小グループでの活動が基本だったので、保育者が対話を通して語彙を広げたり、音韻意識を育てたりする場面も多く見られ、個々の発達に応じた支援が行われているように感じました。こうした積み重ねにより、学年末にはほとんどの子どもがフランス語で自然にやり取りできるようになっており、その成長の大きさに驚かされます。



遊びの中で、フランス語の発音確認

さらに、学校には言語支援を専門とする担当者（オートペダゴギー）がいると聞き、移民の多い地域ならではの手厚いサポート体制が整っていることを知りました。自由遊びが1日2時間以上確保されていることも特徴的で、遊びの中で友達と関わりながら言葉を使う経験が、言語発達を

大きく後押ししていると感じました。今回の見学を通して、子どもが安心して挑戦し、自然に言語を獲得していく環境づくりの重要性を改めて学ぶことができました。

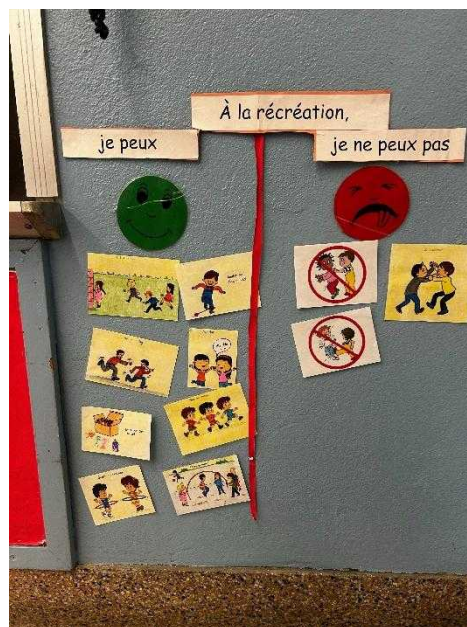
その他、写真をいくつかピックアップ！！



やっぱり大切な、視覚支援（家庭保育（Milieu familial）



ずっと居たくなるような保育環境（Garderie（民間保育所） Le jardinurbain）



様々な状況とフランス語が合致するように置かれている視覚支援（Ecole primaire Cardinal Léger）

モントリオール文化の勉強！！

短い期間でしたが、やっぱり文化の学びは、研修の学びを深めてくれました！

